



令和 7 年度(第 14 回)定時総会

当協会の令和 7 年度定時総会が 10 月 9 日(木)に長野市内のホテル国際 21 で開催され、提出議案は全て承認されました。総会での会長およびご来賓の挨拶を要約してご紹介します。

●会長 山浦愛幸

地球温暖化は海流にまで深刻な影響を及ぼすようになってきました。しかしまだ多くの方は大変だという認識を持たず過ごしており、全く意に介していない人もいます。協会としては今後も啓発活動に力を入れていく必要があると考えております。一方、わが協会においては会員数の減少が著しく、先ごろ会員増強に向け、入会のご案内をお出ししました。今年度の予算は厳しい状況にございますので、皆様方からも入会のお声掛けをいただくなど御協力をお願いいたします。



●長野県知事 阿部守一様 〔代読〕環境部長 小林真人様

県では、「ゼロカーボン戦略」策定から 5 年が経過することから、見直しを進めるとともに、大規模施設に太陽光発電設備等の設置を義務化し、新築住宅には一定基準の断熱・省エネ性能を義務化する条例改正を検討しているところです。また、「第二次生物多様性ながの県戦略」に基づ



き、長野県版レッドリストの改訂や、生物多様性パートナーシップ協定を締結した企業・団体と共に環境保全活動を進めております。気候変動対策や生物多様性の保全等については、行政単独で解決することは難しく、産官学民の共創により取り組みを進めていく必要があります。貴協会には今後も環境保全の旗振り役を担っていただくよう、心からお願い申し上げます。

●八十二銀行頭取 松下正樹様 〔代読〕取締役専務執行役員 中村誠様

貴協会の設立趣意書に記されている「今さえ良ければという短い視野を超え、子孫への遺産として現在の環境を残す」という理念は、弊行の経営の根幹にも通じるものです。八十二グループでは県内 4 か所に太陽光発電所を設置し「地産地消型エネルギー」の拡大に取り組むとともに、県と連携し「信州サステナビリティ・リンク・ローン活用促進制度」を導入し、企業の脱炭素経営も支援しております。持続可能な社会の実現に向け、企業として果たすべき責任を自覚し、地域の皆様とともに取り組みを進めてまいります。



第 27 回「信州エコ大賞」表彰式

総会に引き続き、表彰式が執り行われました。

今回は 6 支部から 10 件の推薦があり、審査の結果、3 団体が受賞されました。

〔個人・団体の部〕

信州エコ大賞

- ◇富士見町アツモリソウ再生会議(富士見町)
- ◇松代オオムラサキの里(長野市)
- ◇ミヤマシジミ里の会(飯島町)

奨励賞 該当なし

〔企業の部〕

信州エコ大賞企業賞 該当なし



左より) 山浦会長／富士見町アツモリソウ再生会議
会長 中山洋様／松代オオムラサキの里 会長 小
林正様／ミヤマシジミ里の会 監事 田島好美様

第27 回(2025 年) 信州エコ大賞 受賞者紹介

信州エコ大賞の選考対象になる活動分野は、地球温暖化防止、省エネルギー、資源の有効活用、自然保護、産業廃棄物の軽量化、環境教育など多岐にわたりますが、今年度は偶然にも野生動植物種の保護を中心に活動する3 団体が受賞されました。審査会の講評（授賞理由）を基にご紹介します。

個人・団体の部 ● 信州エコ大賞

👑 富士見町アツモリソウ再生会議(富士見町)

同会議は、絶滅の危機に瀕しているアツモリソウ（絶滅危惧種）の保護と再生を目的とし、2006 年から活動を継続しています。地元小学生や高校生たちへの希少野生植物保護のための学習機会の提供や、ボランティアを募った人的交流の推進など、多くの人々を巻き込んだ取組みを展開するとともに、県の希少野生動植物保護回復事業にも参画しています。個体群の分布調査を実施し、自生地の生育環境の保護・保全による個体群の回復をはかっており、自生地への播種や人工交配、さらに無菌培養した苗の栽培実験、盗掘防止を目的に培養した苗の試験販売に取り組むなど、独自の工夫と努力がみられます。また、2019 年には同会議と(株)ニチレイ、富士見町、長野県により「生物多様性保全パートナーシップ協定」が締結されています。産官学民の連携がうまく機能し、環境保全活動が地域の活力アップにもつながっています。



自生地のアツモリソウ



アツモリソウ自生地の観察調査



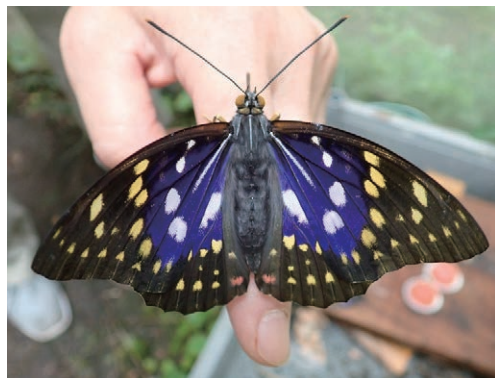
二ホンジカによる食害を防ぐ柵の設置

詳しくは
HPへ👉



👑 松代オオムラサキの里(長野市)

松代町東条地区で、国蝶であるオオムラサキ（準絶滅危惧種）の生息が20 数年前に確認されて以来、里山整備とともにチョウ生息地の保護がはじまり、2016 年以降は同会がその活動を担っています。チョウ生育環境の整備に加え、一般の人や地元小学生を対象とした観察会の実施、里山の生き物観察ができる遊歩道整備やビオトープ作りに取り組むなど、土地所有者や行政、学校と粘り強く話し合い、環境整備から生態記録、環境教育に至るまで、幅広い世代間の交流を通して、地に足のついた活動が展開されています。オオムラサキにとどまらず、在来メダカの保護活動も始まるなど、保護対象にも広がりがみられます。（次ページへ）



手にとまるオオムラサキのオス

詳しくは HP へ👉



(前ページより)

里山の適正管理が他の昆虫や鳥類、小動物など地域の生物多様性の保全につながることを伝えつつ、地域住民も楽しみながら参加できる取組みが、環境保全意識の醸成にうまく結びつけられています。



環境整備（下草刈り）



小学校の観察会（ハウス内）



小学校の観察会（オオムラサキの放蝶）

👑 ミヤマシジミ里の会(飯島町)

同会は飯島町と中川村を中心に、絶滅危惧種ミヤマシジミをシンボルとして里地里山の生物多様性保全を目指して活動している団体です。主に①ミヤマシジミの生息地管理 ②在来植物の育苗と植栽 ③普及啓発の 3 つの活動を精力的に展開し成果をあげています。生息地管理では、詳細な科学的データを取りながら、高刈りと刈り草回収を行った結果、成虫個体数の増加や、草原性植物の多様性を高める効果が検証されました。昨年は県外からの参加者も加わり、1,000 株以上の食草の植栽を行いました。普及啓発では、学習会や昆虫採集イベント開催、他団体主催シンポジウムへの参加、地元小学校の総合学習のサポートなども行っています。地域特産品のソバ栽培にも注目し、昆虫相*全体の保全を視野に入れた活動になりつつあります。特定の希少野生動物種の保護にとどまらず、環境保全を意識した地域づくりにもつながる活動になっています。

*特定の地域に棲む全ての昆虫の生息状況を指す昆虫学の用語。
特定の環境内に生息する昆虫の多様性を示す際に使用される。



上) オス
下) メス

ミヤマシジミ

詳しくは
HPへ



いいじま環境フェアへの出展



小学校総合の授業（食草の移植）



食草コマツナギの植栽会



長野県 PR キャラクター
「アルクマ」
©長野県アルクマ

再配達削減キャンペーン

職場受取などで
荷物を1回で受け取ろう！

賛同事業所
募集中

2025 年
10 月～12 月

詳しくは
HPへ





高島産業株式会社(諏訪支部)



高島産業は主に時計関係やコネクタ部品の 10 mm以下の金属加工品を多く取り扱っており、比較的難易度の低い加工品は中国・ベトナムといった海外工場で作製、医療機器の部品や難易度の高い加工品、その他開発品は日本で担当して加工を行っています。

金属加工品は近年 1 mm以下の製品の加工に注力しておりますが、加工する製品は微細でも「ものづくり」の過程では多くの CO₂を排出しております。その CO₂排出削減のため、当社では 2030 年の CO₂排出量を 2018 年度比 50%減とし、2050 年再エネ率 100%を目指しています。また、2030 年までに自社内の灯油使用ゼロを目指しています。

CO₂排出削減の活動としては、①運用改善による省エネ、②設備更新による省エネ、③太陽光パ

ネル設置を計画、実施しています。①の運用改善による省エネでは、室温の温度管理の徹底、付帯設備の日常管理の徹底、エアコン・換気扇・コンプレッサーのフィルター掃除、圧空設備のエア漏れ対策や設定圧の低減、窓の断熱、日よけネットの設置、生産設備のスタンバイ電力の削減、付帯設備の消費電力と無駄な稼働の削減。照明については照度最適化とタスクアンビエント照明*化を行っています。②の設備更新では、灯油ボイラの撤廃、R22 冷媒を使用した設備の更新、付帯設備のインバーター機への更新、照明の LED 化、空調設備の見直しを実施しております。③の太陽光パネルは、今後も増設する予定です。

*作業を行う場所(タスク)と周辺環境(アンビエント)をそれぞれ適切な明るさで照らす照明方式

超精密への挑戦 Takashima 高島産業株式会社



図1 高島産業の CO₂排出量削減目標

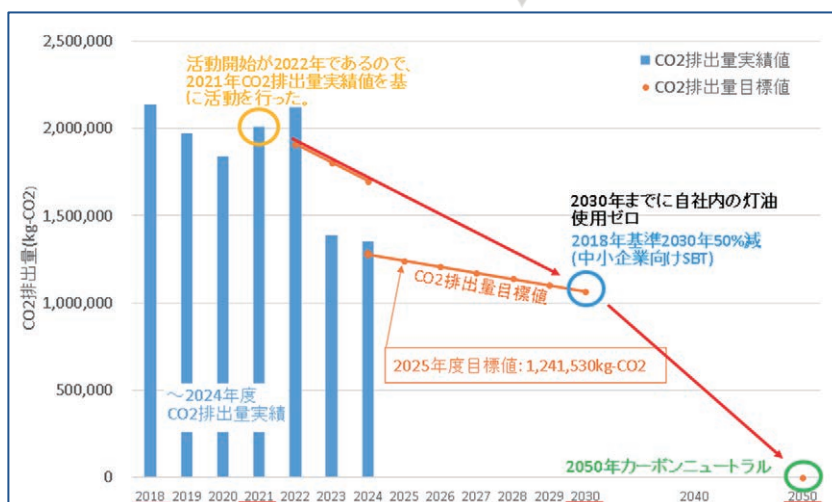


図2 高島産業の CO₂排出量削減活動の一例

コンプレッサーの設定圧を 0.7MPa から 0.6MPa に変更し、CO₂削減効果を確認する。

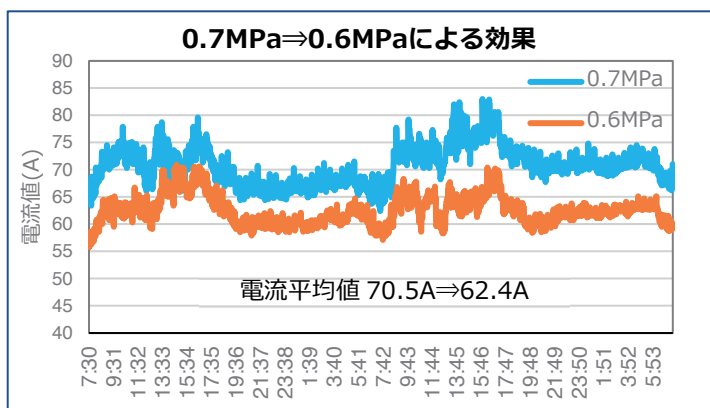


図3 IC 工場の太陽光パネルの設置



出前授業
レポート2050^{しん しゅう}信州ゼロカーボンチャレンジ! 今年も進行中

「2050 信州ゼロカーボンチャレンジ」とは…

小中学生に、①「2050 ゼロカーボン」とは何か知ってもらう ②家庭でできる温暖化防止アクションに7日間トライしてもらう(チャレンジ1) ③2050年に向けて今からできることをさらに調べてもらう(チャレンジ2)プログラムで、今年で6年目を迎えます。テキストは当協会で作成。毎年春に改訂し、6月から協力校を募集し、夏休み前に配布を開始します。普段の授業や家庭学習での活用を想定していますが、**今年度は、特別企画として出前授業を行いました。**

■千曲市立埴生小学校 6年生(9/11[㊟])／3・4年生(9/22[㊟])

千曲市の笠井雪子推進員を通じ、埴生小の富田義和先生から依頼をいただいて実現しました。市役所の方も視察に来てくださり、学校や市と良好な関係を築いている笠井推進員に感謝です(^^)

6年生は、「発電体験」と「エシカル消費」をテーマとした“特別編”の授業。

発電体験コーナー[写真]には、エアロバイク、各種発電機(風力・水力・太陽光など)に加え、LED・蛍光灯・白熱電球の比較実験器を用意。実際に体験しながら、発電の仕組みや省エネの大切さを学びました。お家で一番使われている照明は「LED」が圧倒的。デコ活が着実に進んでいるようです。



エシカル消費コーナーでは、「環境マークでお買い物ビンゴ」に挑戦。「野菜・果物」「魚」「軽食」「お菓子」「飲み物」「文房具」「日用品」の売り場から1品ずつ選び、商品について

ている環境マークでビンゴをします。平均 3~4 ビンゴなのですが、なんと初挑戦でパーフェクトを達成したグループも! この日は授業参観で、保護者の方々にも一緒に学んでいただきました。

3・4年生は、初めてチャレンジに取り組みます。

まず、『うんこドリル 地球温暖化 長野県編』でうんこ先生と学習[写真]。その後、チャレンジの進め方を説明し、チャレンジ 1「お家で地球温暖化防止リスト」から自分が取り組むアクションをその場で選んでもらいました。

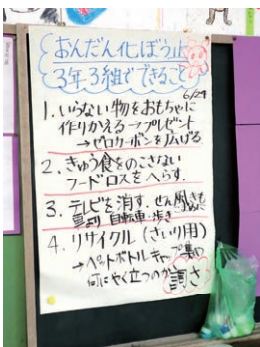
今後取り組むチャレンジ 2「2050 ゼロカーボンへの道」では、「プラスチックごみ」「屋根ソーラー」「おいしい信州ふード」「環境マーク」「サステナブルファッション」から、興味のあるテーマを選んでじっくり学んでほしいです。

皆さんの挑戦を楽しみにしています!!

■飯田市立丸山小学校 3年3組(9/25[㊟])

3年3組は「2050 ゼロカーボンチャレンジ」「うんこドリル 地球温暖化 長野県編」両方に申し込んでくれたクラス。担任の高木佐知代先生から「ゼロカーボン動画コンテスト(長野県主催)」にも挑戦する予定なので、『地球温暖化』や『ゼロカーボン』についてしっかり学びたいとの依頼をいただきました。

埴生小での授業から中2日、いざ飯田へ🚗



教室で「おんだん化ぼう止 3年3組でできること」という貼り紙を発見👀

「きゅう食をのこさない」「リサイクル」といったアクションが書かれていて、視察に来てくださった飯田市役所の方も感心されていました。

授業前半はうんこ先生と一緒に『うんこドリル 地球温暖化 長野県編』。バンバン手が挙がります。メタンの温室効果まで学習していることに驚き!

後半はチャレンジ 2 をクイズで深掘り。真剣に考え、積極的に答えてくれました。体操着についている品質表示タグを早速確認する児童の姿も微笑ましい。

ゼロカーボンチャレンジやゼロカーボン動画コンテストの応募に向けて、ヒントや素材を提供できたでしょうか…。

ご応募お待ちしております!!



長野市センター

親子環境バスツアー「温暖化ってなーに！」を開催しました

環境関連施設の見学や自然観察を通して地球温暖化の現状や自然を守ることの大切さを理解し、温暖化防止について自ら考え、行動を起こす機会をつくるため、長野市環境保全温暖化対策課と長野市地球温暖化防止活動推進センター共催の「親子環境バスツアー」を9月7日⑩に開催、9家族23名の親子の参加がありました。

最初に、いづなお山の発電所〔写真右〕を訪問。主に北信地域の未利用木材（バイオマス）を活用し、年間約2,800万kWh（一般家庭の7,000世帯分に相当）を発電しています。伐採木や廃木材を原料として発電するためカーボンニュートラルで、また、発電燃焼後の焼却灰も、高炉セメントなどを加えて砂利をつくって林道等の路盤材として有効利用している一



との説明を受けた後、原料置き場や発電設備を見学しました。

午後は戸隠森林植物園〔写真左〕へ。同園ボランティアの会の案内で園内を散策。同園の標高1,200m付近まで生息範囲を広げているニホンジカによって、植物の葉が食べられた痕跡も見ることができました。猛暑や少雨が原因で広葉樹の落葉が早まっている一との説明に、身近なところで温暖化の影響が現れていることを実感できました。

「信スマ」へのご参加ありがとうございました！



長野県センターは県などと共催で、9月19日⑤から10月3日⑤までの2週間、「信州スマートムーブ通勤ウィーク」(信スマ)を実施、参加事業所数、参加者数とも昨年度を上回る結果となりました。



参加事業所数	190 事業所
のべ参加者数	45,134 人
うちノーマイカー	10,649 人
同 エコドライブ	34,485 人
CO ₂ 削減量	89.1t-CO ₂
(約9,000世帯の1日あたりの排出量に相当)	



長野県 PR キャラクター「アルクマ」©長野県アルクマ

一般会員

株式会社都筑製作所 上小支部
八十二 Link Nagano 株式会社 北信支部
八十二アセットマネジメント株式会社 北信支部

2025年10月6日現在
*敬称略 50音順 法人・団体会員掲載

新会員紹介

株式会社井上
スワテック建設株式会社
株式会社スワロースキー
塚田理研工業株式会社
長野県パトロール株式会社
株式会社ミスズ工業

賛助会員

中信支部
諏訪支部
北信支部
伊那支部
佐久支部
諏訪支部

事務局
だより

人事異動のお知らせ 8月31日付退職 堀池 政史（市センター政策部長）

【発行元】〒380-0835 長野市新田町 1513-2 (82 プラザ長野)

□「エコシン」は「エコ信州」の略称です
2025年11月11日発行

●一般社団法人 長野県環境保全協会

TEL:(026)237-6620 FAX:(026)238-9780 E-mail:nace@janis.or.jp https://nace.main.jp/

●長野県地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6625 FAX:(026)238-9780 E-mail:nccca@dia.janis.or.jp https://nccca.or.jp/

●長野市地球温暖化防止活動推進センター

TEL:(026)237-6681 FAX:(026)237-6690 E-mail:eco-mame@dia.janis.or.jp https://www.eco-mame.net/

